せんだい普及センターだより VOL.67
（平成30年2月２３日発行）

BLOSSOM

ＢＬＯＳＳＯＭとは農家の皆さんと普及センターが協同し美しい花を咲かせるよう，また実りあるものとなるよう願いを込めて名付けました。

宮城県仙台農業改良普及センター
（宮城県仙台地方振興事務所農業振興部）

〒981-8505
仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号
ＴＥＬ 022-275-8320（地域農業班）
022-275-8410（先進技術第一班）
022-275-8374（先進技術第二班）
ＦＡＸ 022-275-0296（部共通）
E-mail sdnokai@pref.miyagi.lg.jp
ＵＲＬ http://www.pref.miyagi.jp/site/sdnk/

食味向上に向けた取組

平成30年からの新たな取組に向けて～選ばれる「みやぎ米」生産へ～

約半世紀継続されてきた米政策が，平成30年産から大きく見直されます。

平成25年12月に決定された「農林水産業・地域の活力創造プラン」に基づき，平成30年産から行政による生産数量の配分ではなく，需給見通しや消費動向を確認しながら集荷団体等が中心になって需要に応じた生産を行うこととなりました。

平成29年12月には県農業再生協議会から各市町村農業再生協議会に対し，生産の目安を提示しました。各市町村農業再生協議会はこの生産の目安をもとに事前契約や複数年契約等により，売り先を確保した生産を行い，需給のバランスを図っていくことになります。

一方，平成30年から新品種「だて正夢」，玄米食向け品種「金のいぶき」が本格デビューとなり，これまでの「ひとめぼれ」「ササニシキ」と合わせ「みやぎ米」の４本柱が揃うことになります。仙台管内の新たな２品種の作付見込面積は約５６ha，栽培予定農家数は７８人になっています。それぞれの栽培予定農家は栽培マニュアルに従い生産管理を行うことで，「みやぎ米のブランド」が強化され，食卓シーンに合わせた銘柄として消費者から選ばれるお米として育てていかなければなりません。そのような取組が，みやぎ米の安定した生産量の確保，需要に応じた計画的生産が可能になると考えます。

農業施策は大きく見直されましたが，これからも普及センターは「みやぎ米」の安定生産やブランド化に向けて取り組んでまいりますので，是非お気軽にご相談下さい。

仙台農業改良普及センター　技術次長（総括担当）　泉澤弘子

農地の貸し借りの仕組み！農地中間管理事業を活用しましょう！

平成29年度プロジェクト活動の実績
－ 今こそ拓こう！多様な仙台近郊農業 －

No.1　集落営農100ha法人の鉄人化計画の推進

完　了

（農）井土生産組合を対象としたプロジェクト活動も，3年目の最終年となりました。組合では，水稲作業の省力化と分散化のために導入した乾田直播栽培の技術定着に取り組みました。今年は昨年の倍の6haに面積を拡大しました。これまでの課題であった雑草の管理について，除草剤散布のタイミングを組合員とほ場を確認しながら指導しました。8月に長雨だったにも関わらず，乾田直播の収量は550kg/10aで，今年の目標収量を確保することができました。

また，経営の柱である立ちねぎは台風により曲がり，一部は品質が落ちてしまいましたが，それでも出荷は順調に進んでいます。

12月開催の「井土ねぎまつり」では，昨年度の反省を踏まえ，様々な改善に取り組み，大きな混乱もなく運営が進み，大成功をおさめました。

さらに畑地の排水対策については，試験研究機関で開発している「浅層暗きょ」の効果実証ほを設置しました。今後効果が確認できれば，収量，品質の向上が期待されます。

プロジェクト活動としては終了しますが，今後もフォローアップしていきたいと考えております。

【浅層暗渠施工の様子】

No.2　仙台東部における土地利用型農業法人の経営体質の強化

継続

【組織管理研修会】

設立間もない土地利用型の農業法人（(農)グリーンファーム松島，(農)ファーム七ヶ浜，(農)岩切生産組合，(農)六郷南部実践組合，(農)せんだいあらはま）を対象に，経営者マインドの育成と組織運営体制の強化を目的に，組織管理研修や複合経営部門の技術支援を行いました。

組織管理研修では，講師に秋田県立大学生物資源科学部アグリビジネス学科准教授藤井吉隆氏を招き，２日間にわたり，「これまでの組織運営の振り返り」をテーマに演習を中心とした研修会を行いました。また，演習では法人毎にこれまでの経営を自己診断し，課題の抽出と，その課題解決策について検討しました。経営を振り返ることで，取組が弱かった項目が明らかになり，現状を見える化して共有化できたことで，活発な意見交換が行われ，経営を見直す良いきっかけになったようでした。

また，大豆やえだまめ等の土地利用型作物やトマト，葉物野菜について生育調査やほ場巡回を通じて技術習得を支援しました。

普及センターでは，次年度以降も，これら法人を対象に重点的に支援するプロジェクト活動を展開する予定です。

No.3　中山間地域の農業を担う新設法人の体制整備

完　了

仙台西部地区で初となる農業法人，（農）あきう生産組合を対象に，経営や組織体制の整備を支援しました。

まず，経営化として，基幹作物である大豆を43haに作付けし，反収130kgを確保しました。生育調査や坪刈りの結果から，主茎長が長く分枝数が少ないことを確認し，次年度はLPを含む一発肥料から大豆化成に切り替え，株間を広げ，生育の改善を目指す指導をしました。そばは１月に開催した視察研修を踏まえて，危険分散を図るため播種期を数回に分け，排水対策を徹底し，水稲は受託面積が13haに増加したことから，全面積を密苗により育苗と田植え作業の省力化を図ることとなりました。

また，直売所を想定した新規園芸品目の導入支援として実証ほを設置しました。JA仙台と連携し水稲育苗ハウスでほうれんそう，ゆきなを生産し，JA直売所たなばたけ高砂店，ヨークベニマル愛子店に出荷することができ，次年度以降も継続して野菜を生産することとなりました。

プロジェクト活動は完了しますが，普及センターでは，継続して中山間地域の農業振興を支援していきます。

【大豆成績検討会】

「ＧＡＰ」に取り組み，農業生産のレベルアップを目指そう！

No.4　曲がりねぎ販売額1億円を目指す指定産地の育成

完　了

【ねぎの食味試験の様子】

JAあさひなねぎ部会では，「曲がりねぎ」の販売額1億円を目指して作付け拡大に取り組んでいますが，一方で，高齢化や連作障害の発生が問題となっています。そこで，普及センターでは平成27年度よりプロジェクト活動を立ち上げ，JAあさひなと連携して生産拡大及び産地維持体制整備の支援を行っております。

プロジェクト活動では，①生産拡大支援として，JAと連携した生産組織等への作付誘導を図り，作付面積は13.5ha（H27）から16ha（H29）に拡大しました。また，高齢者でも曲がりねぎが生産できるように，従来の「施設やとい」に比べて作業時間を省略できる「露地やとい」を提案し，早期出荷分への対応という形で導入されることとなりました。②土づくり・病害虫対策として，土壌診断に基づいた施肥管理や輪作の支援，農薬展示ほ設置による新規農薬の防除効果等の情報提供を行いました。③品種選定の支援として，品種比較ほを設置して生育状況を確認するとともに，部会員自員で食味官能検査を行い，各品種を評価したことで，曲がりねぎに適した品種の作付推進に結びつけることができました。

No.5　安定供給が可能なブルーベリー産地及び新たな果樹産地の育成

継続

富谷市ブルーベリー生産組合では，約4.5haのブルーベリーが栽培されていますが，樹勢の低下や湿害，高温干ばつ等により生産が不安定になっています。また，ＪＡあさひなぶどう部会では，栽培経験の浅い生産者も多く，技術的な支援が必要となってします。そこで，JAあさひなや富谷市と連携して生産拡大や栽培技術の支援を行っています。

ブルーベリー栽培においては，せん定指導，かん水技術，有望品種の導入支援を実施しました。せん定指導においては，枝の更新に重点を置いて継続的に指導しており，次第に樹勢が回復してきています。かん水技術に関しては，県農業・園芸総合研究所と連携し，自動かん水装置の樹体や土壌水分への影響について調査しました。今後は，その結果をもとに適期かん水について指導していきます。有望品種の導入支援では，栽培環境に適した「ラビットアイブルーベリー」が６人の生産者により植栽されました。現在，ブルーベリー生産組合で苗木が育成されており，今後も栽培面積の拡大が期待されます。

ぶどう栽培においては，年数回にわたる講習会(種なし処理や房管理，短梢せん定栽培に向けた樹の骨格づくり)の実施や個別巡回指導を行いました。高品質な房づくりや骨格づくりの完成に向け，次年度も継続的な技術支援を行っていきます。

【ぶどうの栽培講習会
（房管理の様子）】

No.6　就農計画の早期達成による新規就農者の定着促進

完　了

【レタスの現地指導の様子】

管内で近年増加している新規就農者の経営安定に向けて，県知事や市町村長による計画認定を受けている新規就農者や青年就農給付金を受給している就農者を対象に，生産技術向上，資質向上，経営能力向上の3つの柱を軸に支援を行いました。

生産技術向上については，個別巡回指導を中心に，土づくりや病害防除に関する基礎講座を開催しました。今年は秋冬野菜の管理が難しい年となりましたが，昨年並みもしくは昨年以上に出荷した方がほとんどで，栽培技術が習得されていることがわかりました。資質向上支援としては，経営能力の向上を図るため，12月から経営管理講座を開催し，個別に帳簿の管理やパソコンでの記帳等について指導を行っています。

計画の最終年となる今年度は，経営改善に向けた取組支援を重点的に行いました。こうした新規就農者と作付・作業計画を作成し，実行できなければ原因究明と計画変更等を一緒に考える活動を行ったところ，年度後半には自ら経営改善に取り組む姿勢が見られるようになりました。

今後も地域の重要な担い手である新規就農者が早期に就農計画の目標が達成できるよう，支援していきます。

農薬使用の際は，適用作物や使用方法をラベルで必ず確認しましょう！

受賞おめでとうございます

東北農政局土地改良事業地区営農推進功労者に，（農）井土生産組合が選ばれました。これは，土地改良事業を契機として，安定した営農の定着に向けて創意工夫を凝らした生産・販売に取り組む団体等に対し贈られるもので，12月20日に東北農政局にて，表彰式が執り行われました。

組合では，仙台東部でいち早く区画整理に着手するとともに，水稲の省力化技術を積極的に導入し，労働力を立ちねぎなどの園芸作物に集中させて安定生産，品質向上に努めています。また，井土地区のコミュニティ再生の場として，収穫祭や「井土ねぎまつり」を開催しています。このような取組が評価され，今回の受賞となりました。

【受賞式の様子】

平成29年度宮城県農業･農村活性化女性グループ等表彰で，相原榮子さん（仙台市）が最優秀賞を受賞しました。西洋野菜や仙台伝統野菜生産の第一人者で，生産だけではなく販売にも積極的に取り組み，仙台市内のホテルやレストラン等と契約栽培を行っています。食育活動も熱心に取り組まれ，学校給食への食材提供や農作業体験受け入れなど，農業の良き理解者の育成や，実需者への地域食材の魅力を伝える活動を行っています。

さらに生活研究グループ「日辺あゆみ会」や仙台地域及び宮城県生活研究グループ連絡協議会等の会長及び役員を長年務め，地域の女性グループのリーダーとして，技術の伝承や地域農業活性化の牽引役として活躍している点が高く評価され，今回の受賞となりました。

【最優秀賞受賞の相原榮子さん】

トピックス

みやぎ農業未来塾ステップアップスクールを開催しました

【佐藤敏充氏の講演】

平成２９年１２月２０日，「みやぎ農業未来塾ステップアップスクール」が開催されました。今年は初の試みとして，農業大学校の講義とコラボを行い，若手農業者や農業大学校学生等が参加しました。

講演の部では，多賀城市の宮城県指導農業士Flower　Farm　四季彩代表佐藤敏充氏から「稼げる農家になるための考え方」について講演をいただき，経営構想や市場を見据えた品目の選定方法などを学ぶことができました。

佐藤氏の講演では,消費者や商品バイヤーとのやりとりから得ることができた自らの体験談を随所に入れ，いかに「お客さんとコミュニケーションをとるか」，そして「自分の商品に個性を持たせるか」「独自の情報発信力」の重要性を説かれました。

黒川地域担い手育成支援研修会を開催しました

【上田栄一氏の講演】

平成30年２月９日に，ＪＡあさひなと共催で「黒川地域担い手育成支援研修会」を大和町で開催しました。「将来を見据えた地域農業・集落営農について」と題して，滋賀県の（農）サンファーム法養寺理事の上田栄一氏より御講演をいただきました。サンファーム法養寺は施設園芸なども導入しているほか，甲良町内のその他の集落営農組織との連携による協同組合を設置されるなど大変先進的な取組をされています。

上田氏からは，「集落営農の究極の目的は明るく住みやすいむらづくり」，「地域農業を持続していくには，『集落の農地は集落で守る』という発想への切り替えや若い人を積極的に巻き込む姿勢が必要」等，実践を踏まえてわかりやすくお話していただきました。

この印刷物は1,000部発行し，1部当たりの経費は３１円です。